

入河内大根「重すぎ！」県大生ら収穫に大汗

安芸市で今年もスタート



大根を収穫する県立大生(安芸市入河内)

【安芸】安芸市入河内の特産野菜「入河内大根」の収穫が今年も始まった。19日は地域と交流を続ける高知県立大学の学生9人が作業し、巨大な大根を前に「重すぎ！」と目を見張った。

2006年に地元農家が「入河内大根のこそう会」を結成し、今冬は10人が栽培。首の部分が赤紫色で、青首大根の約3倍の大きさが特徴だ。

重さは最大で10^キにもなるが、同会会長の有沢俊明さん

(74)「川北甲」によると、今季は種を植えた9月以降の高温少雨が影響し、出荷基準に満たない3^キ未満が多いという。例年3千本を出荷するが、今年は3分の1程度となる見込み。

この日は、県立大のサークル「かんきもん」の援農部門のメンバーが有沢さんの畑で収穫した。葉の根元をつかんで揺さぶ

りながら引っこ抜き、「うーい、抜けた」「重すぎて持てん」と笑顔。苦戦する仲間には「そ

んなんじゃ新入生が入ってくれないぞ」と「エール」を送りながら、次々と収穫した。

有沢さんは「しんどい作業を楽しむ姿に元気をもらう」と目を細め、「大根は入河内の宝。1本でも良いのが取れたら出荷するので、食べてもらいたい」と話していた。

収穫は2月中旬まで。大根は安芸駅ちばさん市場などに並び、26日は高知市の日曜市で学生が販売する。

(加藤風花)